

Neo-sSpace 主催

# “幽霊”が生きる組織の作り方

-心理臨床文化と制度について-

精神医療に棲まう“幽霊”は  
どこに行く？

講師

坂井新 (Neo-sSpace 専務取締役/にじクリニック副院長)

特別講師

皆藤章 (奈良県立医科大学特任教授/京都大学名誉教授)

青木健一 (観世流シテ方能楽師)

皆藤章先生をゲストにお迎えし、  
今後の臨床現場における“幽霊”の生き場所について  
心理臨床学、医療人類学の視点から語り合います。

そして今回は、  
日本古来の芸能において最も歴史が古く、  
幽霊との関わりが主題として多く登場する能楽の世界から、  
青木健一先生をお呼びしました。  
“幽霊”という主題と関わりあう「敦盛」という能曲を、  
実際にパフォーマンスしていただきます。

三人による対談も予定しています。

日時：2022年3月26日(SAT) 13:00 - 18:00

会場：朝陽会館（大阪市北区天神橋）

オンライン(zoom)

参加費：5000円

対象：臨床心理士・公認心理師、心理学を学ぶ学生、精神科医療に携わる方

申込〆切：3月12日(SAT)

---申し込み方法---

氏名・所属・電話番号を記載の上 [neospace.office@gmail.com](mailto:neospace.office@gmail.com) までメールでお申込みください。

## 病院に現れる“幽霊”の話を聞いた経験はありませんか？

私は、さまざまな現場で、何の因果か、臨床心理室の立ち上げを任されることが多くありました。今では、少し大きめの精神科診療所の副院長という立場から、組織運営に携わり、一方で自らのオフィスでの臨床に励んでいます。組織運営というマクロから、一人ひとりのクライアントや患者と関わるというミクロな活動へという往復活動が続けているうちに、ふと病院に現れる“幽霊”の話を、とんと聞かなくなったなと思うことがありました。

ではなぜ病院という施設では、幽霊が現れやすい(かった)のでしょうか？

私の一つの答えは、それは人の命と関わるから、だと考えています。今や、その幽霊が現れなくなったのはなぜなのか？心理臨床において幽霊とは何なのか？、こうした幽霊が闊歩するような現場、組織こそが心理臨床が豊かな場所ではないか？という問いを掲げたいと思います。特に精神医療における“幽霊”という視点を中心にして、心理臨床のミクロな営みから、マクロな組織臨床を語ってみたいと思っています。

講師：坂井 新

## 特別講師 紹介

皆藤 章 先生

青木健一 先生

福井県生まれ。京都大学工学部に入学するが、三回生のときに教育学部に転じ、生涯の師である河合隼雄に出会い、臨床心理学を学ぶ。

京都大学大学院を終えた後、大阪市立大学助教授、甲南大学助教授を経て、1999年より京都大学大学院教育学研究科助教授、2008年より教授。2018年3月、京都大学大学院教育学研究科教授を早期退職。現在、京都大学名誉教授。

2018年4月～12月まで、ハーバード大学Medical School客員教授としてアメリカ合衆国マサチューセッツ州ボストンにて研究活動に従事。

現在は奈良県立医科大学医師・患者関係学講座特任教授、日本糖尿病医療学会理事、日本糖尿病教育・看護学会評議員、日本臨床心理士資格認定協会理事などを務める。文学博士、臨床心理士。

専門は心理臨床学、糖尿病医療学、医療人類学、臨床実践指導学。

### 著書・訳書

『心理臨床家のあなたへ』(福村出版)

『京大心理臨床シリーズ12 いのちを巡る心理臨床一生と死のあわいに生きる臨床の叡智』(高橋靖恵・松下姫歌編)(創元社)など

『八つの人生の物語』(アーサー・クラインマン著 監訳 誠信書房)

『ケアをすることの意味』(アーサー・クラインマン・江口重幸との共著・監訳 誠信書房)

『ケアのたましい』(アーサー・クラインマン著 監訳 福村出版)他

明治時代より能を伝承する青木家の四代目として昭和57年に生まれる。4歳にて初舞台を踏み、数多くの舞台に出演。平成17年東京藝術大学音楽学部邦楽科能楽専攻を卒業後、3世梅若万三郎師に入門。平成23年観世流準職分に認定。平成24年梅若万三郎家を独立、同年能楽協会に入会。

日々多くの舞台活動を行うかたわら、生まれ育った吉祥寺を中心に能の普及と発展のために一般向けのお稽古や講習会を数多く手がける。

(公財)梅若研能会 所属

シテ方観世流準職分

(公社)能楽協会 会員

東京藝術大学 邦楽科 助手

